

リモートタイプ (ワイヤレス) 温度コントローラの動作説明

1. ワイヤレス方式の温度コントローラ WS-HT-RM1・WS-HT-RM2 を含めまして、
Warm & Safe 社の温度コントローラの温度調節方式は、『電圧』の制御（たとえば0～12Vの可変）方法ではなく、通電ON-OFFの『時間』の制御で調整しています。
ダイヤルを右に一杯まで回した状態にセットすると、常にONの状態に通電され、左に戻すにつれてONの時間が短くなるようになっており、左一杯のクリックまで回すと通電は切れてOFFになります。
ダイヤルの回転操作で、繰り返されるONとOFFの時間が変化するようであれば（右に回すほどONの時間が長くなる）、コントローラの動作としては正常です。
コントローラ送信機内部のバッテリー消耗を防ぐために、ダイヤル操作後に数回点滅（これはコントローラの命令を受信機がアクセスした事を知らせています）した後に、1～2秒でLEDは消灯しますが、故障ではありません。
2. リモート式の温度コントローラ受信機と送信機の動作説明を下記に説明致します。
（赤・黄の2chどちらも動作は同じです）
 - ①受信機側に バッテリーハーネスからの電源を差し込んだ瞬間に、ジャケットへの最高温度（全開連続発熱）の33%供給を保持します。
 - ②次に送信機側のダイヤルを操作する（回す）と、受信機は今まで保持していた33%をキャンセルして、送信機のダイヤル設定値の命令信号に従います。
 - ③その後ダイヤルを左方向一杯のクリッする部分まで回してOFFにすると、すべての通電は止まります。
 - ④その状態からダイヤルON操作をすると、受信機は送信機のダイヤル指示に再度従います。仮に①の操作を行ったまま、送信機のダイヤルを何も操作せずにいると、その時のダイヤルの位置に関係なく、受信機はそのまま33%の出力を保持し続けます。
このような動作をするのは、ツーリング先で万一送信機を紛失したり、或いは内蔵バッテリーの消耗等で温度調整が出来なくなった場合を想定し、送信機からの信号が受けられなくなった場合でも受信機側で常に全開温度の33%を保つことで、ライダーが寒い思いをしないようにとの配慮でこのような設計になっております。
ジャケットへの通電をしない状態での走行を希望される場合、最初からバッテリーハーネスからの電源を受信機に繋がない（電源を供給しない）か、或いはバッテリーハーネスを繋いで（その瞬間から33%保持）から送信機のダイヤルを回して（その瞬間から受信機はダイヤルの命令に従う）OFFにして頂けば、ジャケットへは通電されません。
その他操作方法や動作プログラム等につきご不明点等ございましたら、お問合わせ下さい。